特定非営利活動法人

チャレンジ企業支援隊　会報

Global Management Supporting Partners (GMS)

会報Ｖｏｌ．７　H20 年 10 月 10 日
発行：理事長　成田欽史郎
ＴＥＬ＆ＦＡＸ　0742-44-9071
編集（広報担当）：理事　馬場英彦
ＴＥＬ＆ＦＡＸ　0743-75-1685
Ｅ－Ｍａｉｌ　bamba@m4.kcn.ne.jp
URL http://www.npo-gms.com



巻 頭 言

理事・会計担当　竹内宏一

今年の「第９０回全国高校野球選手権記念大会」は、大阪桐蔭が深紅の優勝旗を手に終幕した。各プレーヤーの「技量」の向上には眼を見張るものがある。又、鍛え抜かれたチームプレーの“巧さ”は、プロ野球顔負けの一面をも覗かせ感動した。

監督、コーチ、又、先輩の指導、アドバイスを「素直」に受け入れ、一人一人が、真摯に努力を積み重ねた結果が、本番で如何なく発揮された証左であり拍手を送りたい。世界の潮流として IT 化、デジタル化が着々と進んでいる中で、夏の高校野球は、アナログ文化も毎年、進化し続けている事を教えてくれた。正月恒例の「箱根駅伝」もデジタル化社会の清涼剤と感じているは、私一人だけではないだろう。

さて、グローバル化・デジタル化が進む中で中小企業の経営者が最も頭を痛めている問題の一つに「人材の育成」、「後継者づくり」、「経営ノーハウの継承と伝承」がある。

「人づくり」は、アナログ文化の集大成であると考えられる。GMS では、各部会が中心となり昨年度からこの経営課題解消の支援活動として、「松下資料館」を活用した研修支援活動を行っている。

「松下資料館」は、今でも、経営の神様として尊敬されている松下幸之助の「思想」「実践哲学」を紹介している施設で、「松下幸之助との出会いと対話」と題して時代を超えた普遍的で示唆に富んだ講話の音声テープ、映像ソフトを通じて、「経営理念」確立の大切さを会得して戴く中で、来館者が抱える課題、問題点を解決する糸口を見出して戴く事を目的に一般公開されている。GMS の研修会に参加された経営者の方々からは、約２時間の“館内見学”を通して、何となく糸口が見つかった。併せて、他社の方々との意見交換を通して“モヤモヤ”から解放されたとのご意見が多く寄せられている。又、後日、再度来館される経営者も少なくない。

最近、生き残る企業と危機に陥る企業では、経営理念の組織浸透・伝承や世代間継承の仕方が違う、と言う研究論文が紹介され話題を呼んでいる。「松下資料館」では、松下さんが提唱され経営活動の軸とした「企業は社会の公器」“理念経営”について、次世代を担う若いベンチャー起業家の方々にも解り易く考察戴けるよう展示内容に工夫が凝らされている。

しかし、幸之助は、**“わしの真似をしても成功せえへんで”**とも言っている。「日々新た」に自ら先人に学び、自分らしさを作り上げてゆく気概なくして“その人”の成長はあり得ないと注釈されている。

GMS の終局的な活動目的は、日本の未来を託す中小企業やベンチャー企業の「人づくり」を、お手伝いする活動に他ならないと考えています。その為には、会員個々が、高校野球の球児同様、アナログ的に過去の体験、ノーハウが更に輝きを増すよう、真摯に学び、会員相互のコミュニケーションを密にして、真にチームとして GMS が中小企業から評価され、頼られる存在になりたいものだと願っている。

新春講演･交流会を開催

今春の２月７日１８時より、恒例のチャレンジ企業支援隊が主宰する『ＧＭＳ新春交流会』が、奈良県文化会館２階会議室で開催された。



ご来場者は、ご後援を頂いた奈良県や財団法人関西ニュービジネス協議会のご関係者をはじめ、近畿経済産業局創業・経営支援課、奈良県中小企業支援センター、関西の中小・ベンチャー企業の経営者や大学の先生など８０名に及ぶ多数の参加者があり、盛大な交流会となった。

第１部では、マーケティング部会の馬場理事、モノづくり部会の中村理事、ＨＲＭ部会の山崎理事から、チャレンジ企業支援隊の過去１年間の活動報告を行った。

事例紹介の中で、モノづくり実践交流塾での『松下幸之助の人づくりの真髄に学ぶ』勉強会、近畿経済産業局・ＮＢＫのブラッシュアップ事業への参加と取り組み、大阪市立デザイン教育研究所でのデザイン起業論の取り組み、万葉ミュージアムショップの商品開発プロジェクト、追手門学院大学のキャリアデザイン論などが紹介され、来場者から大きな関心が寄せられた。



第２部では、阪南大学の大槻学長のご好意により、『地域の活性化と中小・ベンチャー企業の役割』と題して、ご講演を頂いた。

ご講演の中で、連携による創業への挑戦を促す施策として、『地域イノベーション協創プログラム』や『農商工連携促進事業』の紹介があり、地域の再生が最重要施策となっているとの認識を示された。

又米国と英国と豪州と日本の企業家を育てる風土の違いをわかりやすい事例で紹介された。要約するとこうである。

全財産をなげうってベンチャー企業を立ち上げようとする人がいるとして、英国では『冗談じゃないの？』、豪州では『何様だと思っているんだい？』日本では『危ない！やめとけ！』、米国では『それは素晴らしい！幸運を祈る！』

大槻先生は、ベンチャー育成を促進する日本で当面の課題は、できるだけ沢山の『事業や技術を評価できる』目利きを育てることだと強調された。そして骨太の中小・ベンチャー支援策が必要と、講演を結ばれた。

第３部の交流会では、近畿経済産業局の福崎課長から、地域資源活用支援事業や農商工連携支援事業について、概要の説明があり、奈良県も大いに取り組んでほしいとの要請があった。又奈良県商工労働部の小島次長、奈良交通の阪本相談役、生駒商工会議所の久保会頭、ＮＢＫの進藤常務などご来賓からもご挨拶を頂戴し、和気藹々のうちに交流懇談が行われた（成田）。



第六回総会報告

事務局　石田　仁男

NPO チャレンジ企業支援隊の第六回総会は平成20年５月１５日に会員26名、委任状10名の出席を得て、門真市の松心会館で開催した。

総会は、中尾理事の司会で始まり、成田理事長を総会議長に選出し、総会資料に沿って、議事を進めた。

議案１は、竹内理事から平成１９年度は、事業総額が978万円となり、残念ながら前年実績および事業計画を下回る結果となったとの事業報告があり、小島監事が監査結果を報告し、承認された。

次に、会員の総意で作成した平成２０年度の事業計画について、竹内理事から事業総額914万円の計画との報告があり、議案２も承認された。

（本年は理事等の変更も無く議案は以上の２案でした）

総会終了後、来賓４名（中小企業基盤整備機構 近畿支部長 広瀬邦明氏、奈良県くらし創造部協働推進課 課長補佐 山下信幸氏、(財) 奈良県中小企業支援センター 経営支援係長 大仲雅彦氏、さいせい株式会社 代表取締役 新造豊久氏）の皆様にも入場頂き、平成１９年度事業活動を各部会長が、パワーポイントを使い詳細に報告、出席者は企業支援など活動内容を理解し、最近の活動を共有することができた。

活動報告終了後、会場を替え日頃お世話になっている来賓の方々と、会員との懇親交流会を行った。

本年は緊縮財政もあって、初めての試みとして、コーヒーパーティ形式でサンドイッチ等による、アルコール抜きの交流会となったが、中小企業基盤整備機構 近畿支部、奈良県くらし創造部、奈良県中小企業支援センターなどの来賓のご参加をいただきアルコール抜きでも予定時間をオーバーする程の大変な盛り上がりで、実り多い懇親交流会となった。

会員の各位には、これからも各種継続事業・新規事業開発など積極的な創造へ参画を期待します。なお、総会に関する資料は当法人のホームページに掲載していますのでご覧ください。

個人情報とリスクマネジメント

顧問　湯原　伸一　（弁護士）

個人情報保護法が民間部門にも全面施行されて約３年が経過し、企業のみならず、一般人にも個人情報の重要性・プライバシー意識の高揚が見られるようになってきている。

その様な中で奈良県内の財団法人向けに「個人情報保護とリスクマネジメント」と題して講演を行った。講演を行うに際しては、同法が施行され３年が経過していること、財団法人という性格からしてある程度の整備は済んでいると予想されることから、法律やプライバシーマーク・ISMS 等の制度解説は確認程度に止め、情報漏洩を防止するにはどの様にすればよいのか、漏洩した場合にどのような責任を問われるのか裁判例をあげながら解説した。

具体的には、一個人でもできるパソコンを通じた情報漏洩対策の方法（データのパスワードの設定方法など)、電子メール等のモニタリングの方法（プライバシー侵害との関係解説を含む)、ウイニーを通じた情報漏洩の防止策等を説明した。また、宇治市住民基本台帳データ漏洩事件を始めとするこれまでに出された裁判例から見て、何をどこまで管理する必要があるのか、万一漏洩した場合、どのような責任を負うことになるのかについても説明した。

一時期の個人情報保護法ブームが去ったとはいえ、リスクは常について回るものであることからすると、約３年が経過したこのタイミングで改めて意識確認ができたことは意義があったと思う。

モノづくり勉強交流塾開催

第１０回のモノづくり勉強交流塾が、「松下幸之助の“経営哲学・人づくり”に学ぶ」をテーマに、去る６月 25 日（水）15 時より、リニューアルオープンした松下資料館で開催された。

モノづくり勉強交流塾は、中小企業の経営者・幹部社員の方々に参加頂き、互いに課題や悩みあるいは取組み事例を本音で紹介し合い交流することにより、経営上のヒントや元気を得て頂くことを狙いとして３ヶ月に一回開催している。

プログラムは、まずリニューアルオープンした松下資料館の見学からスタート、竹内参与の案内により、①松下幸之助の歩んだ道　②経営道　③商人道　④経営者・リーダーの条件　⑤人材育成の考え方



⑥働くということ　⑦政治への情熱～限りない繁栄を求めて～　⑧松下哲学の真髄について、勉強をした。

松下幸之助氏の経営哲学は大企業のみならず、中小企業にも共通して参考になるところが多く、出席者全員が食い入るように竹内参与の話を聞き、又展示物をつぶさに見学した。（内容が豊富なため、この短時間ではとうてい全てを理解することはできないが、依頼頂ければ後日、個人及び会社として誰でも見学頂くことも可能ということである)。

引き続いて、ビデオ映像により、松下幸之助氏の「人を活かすポイント」について、

（１）将来の方向を示す
（２）部下が偉く見えるか
（３）部下の提案を喜ぶ
（４）適材適所と素直な心

などの重要性について学んだ。

館内見学のあと、見学を通じて学んだこと及びビデオの内容を参考に意見交換を行った。

人材育成・人材活用は、それぞれの会社にとっても共通の重要な課題であり、今回学んだことや自社の悩み及び工夫等について活発な意見交換が行われた。

意見交換会のあと、「技能伝承・技能人材育成の進め方と事例紹介」のテーマで椛島会員より、技能伝承・人材育成の推進フローとポイントについての説明とともに、技能スキルだけでなく、ＩＥ・ＱＣ・ＩＴ等、形式知化スキル及び改善の展開力を備えて、ＱＣＤの観点から自ら課題を発見し解決推進できるテクノロジストの育成の重要性について説明があった。

アンケート結果によると、「松下幸之助の姿を通じ、本当の経営、人間の基本を知る機会を持てた」「人を活かす考え方が学べた。また、聴くこと、問いかけることが大切であると再確認した」等々得るものが多くあったということであった。　意見交換の方法について「分科会的に少人数でじっくり議論できると良い」という提案もあり、これは次回に活かしたく考えている。

「やまとネットショップ成幸塾」を開講

マーケティング部会長　馬　塲　英　彦

奈良県下のネットショップ事業者を対象に『セミナー』と『グループ交流及び公開コンサル』の場を提供し、参加者が相互に研鑽を積むことを目的に「やまとネットショップ成幸塾」を１０月より毎月開催する。

今後ますます増加傾向にあるネットビジネスも成功しているのはほんの一握り。事業が伸び悩んでいる会社も、工夫次第で大きく売り上げを伸ばせる可能性がある。

そこで、奈良県でネットビジネスに取り組んでいる起業家や、中小企業のネットショップ（HP）のご担当者に広く呼びかけ、セミナーと交流会の場を提供し、塾長をはじめ、ネット販売の実績を持つ経験者による事例発表や起業家の相互研鑽を通じて、奈良県の産業活性化に貢献することを目指してスタートした。

「やまとネットショップ成幸塾」には、塾長として奈良県インキュベーターに入居して起業した須田祥充氏（株式会社　Ba・Lanza　社長）にお願いしている。



この事業に関しては、奈良県立図書情報館様の絶大なるご理解ご支援を頂き、主催者（共催）として取り組んでいただいている。

奈良県中小企業支援センター橋田専務理事から「後援」のご支援を頂き、さらに奈良新聞社様からも「後援」をいただいてスタートした。

塾のスタートに先駆けて、９月１０日に開催した記念講演では、100名近くの参加者があり『誰も売れないと言ったバドミントン用品で月商500万円！』・・・わずか2年で作り上げたネットショップ構築の体験談としてネットショップへの取り組みを熱っぽく語りかけて頂き参加者の感動を呼んだ。

須田塾長は、大学卒業後、大手電機メーカーに入社。20年のサラリーマンを経て、2005年バドミントンのネットショップを開店。初月から月商100万円を突破し、その後順調に売り上げを伸ばす。現在4店のネットショップ経営のかたわら、各地でネットビジネスのセミナーも手がけている。



ヒューマン・リソース・マネジメント部会報告

HRM 部会長（理事）山崎　健一郎

追手門学院大学「キャリアデザイン論」の取組みは、今年で 3 年目を迎え、新しく 2 名の講師を迎え、9 月 24 日（木）よりスタートする。

講義のスタートに先立って、７月１７日、９月１８日に、追手門学院大学、関西ビジネスインフォメーション、ＧＭＳ講師が、今年度の進め方について率直な意見交換を実施した。

本年度の「キャリアデザイン論」は、

＊　対象者　１年生（約１，１５０名）

＊　日　程　本年９月２４日（水）

～来年１月２１日（火）

＊　講義回数　１５クラス×１２回= 延べ１８０回

担当講師は従来の池田順治氏、渋谷武志氏、島田幸七氏、中尾都史子氏に加え、新たに橋本俊作氏（社団法人日本産業カウンセラー協会・関西支部　キャリアカウンセラー部長）と山崎聡子氏（社団法人日本産業カウンセラー協会会員）の 2 名に参加頂くことになった。

お二人は、多数の大学・企業等での講義・研修等の実績が大変豊富である。

なお、昨年度からスタートしたゼミ形式の「キャリア実践塾」は、昨年度の反省を踏まえて、今年は２年生を対象に４塾を開講（定員は各塾１２名）し、実施は９月２４日（水）～１１月１１日（水）まで、６回の塾活動を実施する。

「キャリア実践塾」を通して、塾生のキャリアに対する理解がより深まり、日常の大学生活を充実させ、強いては将来の進路、就職に対する意識や行動を明確にさせることが期待されている。

「技能伝承マニュアル」
～モノづくり部会と共同制作～

マーケティング部会長　馬場　英彦

現在、中小企業様最大の課題は、いかに自社の事業後継者を育成するか、と同時に自社の持つノウハウ・技能をいかに次世代へ伝承するかということだ。

今回、奈良県機械工業協同組合様から『技能伝承マニュアル』の制作依頼があった。そこで同組合のご協力を得て、実態アンケート調査によると、大半の事業者は伝承すべき技能を持っているが、その技能を如何に次世代に伝えるか、具体的方法は約６割の企業様が持合わせていない事が分かった。

またその半数の企業は具体的に援助機関があれば活用したいとの希望もあった。

そこで、モノづくり部会と連携して、現役時代技術部門の責任者として活躍した阪本氏を中核に、スタッフが制作会議をかさね、このほどマニュアルを完成・納品した。

このマニュアルを作成するに当たって、単なる印刷物を受け取っても、果たして自社の事情にあわせて実際に活用してもらえるか疑問である。



そこでマニュアルのデーターをエクセル表で自社独自の事情に合わせて作成できるようにＣＤを特別付録とすることで、実際に活用される企業を１社でも多く生み出したいと考えた。

さらに同組合役員会の「経営講演会」にて、マニュアルの活用方法について講義した。今後は希望の企業様にはＧＭＳからの出前講座やコンサル支援も積極的にお受けすることで企業様のお役立ちをしたいと考えている。



NPO と行政の交流セミナー

奈良県くらし創造部協働推進課主催で、県・市町村と NPO 等との協働を推進するため、地域別に県内 NPO 等の活動発表や、地域の現状に関して意見交換を行い、協働して取り組むべき課題を共有し解決手法を探ることを目的に、「NPO 等と行政の交流セミナー」が開催された。

この交流会は、GMS の馬場理事が以前より県に働きかけてきたことも、きっかけとなり本年実行の運びと成ったものである。

8 月 25 日より奈良県 4 会場（南部・大淀町、北部・奈良市、中部・大和高田市、東部・桜井市）で順次実施され、GMS は成田理事長・石田事務局長・馬場理事等が、南部を除く 3 会場に参加し、GMS の活動等の紹介（事務局の一括紹介）を行い、他の NPO 法人や、県・市町村の行政の人たちとの意見交換も活発に行った。

財団法人奈良県中小企業支援センター
松下資料館見学と懇談会開催

去る 6 月 27 日（金）の午後、松下資料館（木津川市）に奈良県中小企業支援センターの橋田専務理事、志賀顧問、大仲係長、奈良県商工労働部上山課長をお招きして、松下資料館をご見学頂き、その後チャレンジ企業支援隊

の理事・会員との懇談会を開催した。

松下資料館は、5 月にリニューアルオープンし、松下幸之助の足跡や、経営の考え方が判りやすく展示されている。展示場はコーナーごとにテーマが設けられ、判りやすく整理され、解説されている。



A コーナー：松下幸之助の歩んだ道

B コーナー：経営道・商人道

C コーナー：経営者・リーダーの条件

D コーナー：人生の行き方・考え方

～働くということ

E コーナー：政治への情熱

～限りない繁栄国家を求めて

このほかに、和室シアターが設けられ、ここでは、松下幸之助が思索の場とした「真々庵」の雰囲気のなかで、幸之助の宇宙観、人間観そして素直な心を体感することが出来る。

この松下資料館のリニューアルに当たっては、チャレンジ企業支援隊の馬場理事が嘱託教授を勤める大阪市立デザイン教育研究所の宮本准教授（当法人会員）の指導の下、若い学生の斬新なアイデアにより展示レイアウトやデザインを提案し、採用されたもので、当法人の産学連携事業の成果の一つである。

資料館の見学のあと、橋田専務、志賀顧問、上山課長、大仲係長と当法人の理事・会員との間で、奈良の経済成長戦略に関する懇談会を行い、活発な意見交換が行われた。冒頭橋田専務から、奈良の産業、農業、観光など経済の現状についてのご説明があり、ついでチャレンジ企業支援隊の理事長から、奈良の資源、歴史、これからの産業支援のあり方、奈良に相応しい経済発展戦略や、「夢の架け橋プロジェクト」などの提案を行い、活発な意見交換を行った。



☆☆ From the Desk of MD ☆☆

会報 6 号から約 1 年が経過し、ご報告事項が山積したため、今回は挟み込み含めて 6 ページの構成となった。この 1～2 年チャレンジ企業支援隊の活動は、モノづくり、人材育成、マーケティング各分野で多様な取り組みが展開され、又質的にも年々向上し、各界から感謝され又評価される事例が増えてきたことは大変喜ばしいことである。

その背景には、各部会での会員の活発な情報交換や勉強会に加えて、様々な事業課題に取り組むなど、舞台裏での地道な努力の積み重ねがある。

NPO 法人は、営利会社や行政ではカバーしきれない社会的な課題や夢の実現機構であると言った人がいるが、チャレンジ企業支援隊も会員各位が自主的に「モノづくり部会」、「ヒューマンリソース部会」、「マーケティング部会」に参加し、活動する中で、そのような姿に一歩一歩近づいてゆければと思う。